

其ノ四
宿

營

0710

〔其ノ四、宿營〕

目次

- 一、満人宿舎ニ於テ炭火ヲ
使用シ多數ノ卒倒者ヲ出シタル例.....(一四五)
- 二、宿營間警戒配備ノ豫習ヲナシ
置キタル爲夜襲ヲ擊退セル戦例.....(一四五)
- 三、歩哨ノ警戒嚴ナリシ爲
敵匪ノ夜襲ニ對シ機先ヲ制スルヲ得タル戦例.....(一四七)

0711

一、満人宿舍ニ於テ炭火ヲ使用シ多數ノ卒倒者ヲ出シタル例

歩兵第七聯隊、第五中隊ハ、奉天省輝南縣ノ治安肅正ニ參加申、昭和十一年五月二十五日、聯隊命令ニ依リ同日輝南縣城ニ引上ゲ、城内満人家屋ニ宿營セシガ爲入舎ス。折シモ當日ハ雨天ニテ、兵ノ被服裝具ハ相當濕潤セリ、之ヲ乾燥セント約四十坪ノ家屋内ニ二十疋ノ炭火ヲ擴ゲタリ。

當時兵ハ舍内ニ在リテ、兵器、被服ノ手入、或ハ横臥シアリタルニ、約三十分經過シタル頃、一名「頭痛ガスル」ト言ヒ出セバ、某モ「頭痛ガスル」某モ「頭痛ガスル」ト言ヒ起キ上リンモ、頭痛激シク顛倒セリ他ノ者モ漸ク一酸化炭素ニ依ルコトヲ知リ、立逃レントセルモ、之亦十名内外卒倒セリ。重態ナルモノハ一時人事不省ノ状態トナリ、中隊長以下狼狽セリ。

後速ニ窓ヲ開放シ、炭火ヲ除去シテ換氣ヲ行ヒ、幸ヒ事ナキヲ得タリ。之ガ原因ハ幹部ガ細心ノ注意ト、適切ナル處置トヲ施サザリシニ在リ。

二、宿營間警戒配備ノ豫習ヲ ナシ置キタル爲夜襲ヲ擊退セル戰例

獨守步第六大隊、第四中隊小隊ハ、昭和十一年七月十五日午前四時、木奇立發、下灣子(木奇南方十五糠)南

0712

方石人溝（木奇南方二十三糠）ニ於テ、共匪約八〇ト交戦、約四時間ニシテ之ニ大打撃ヲ與ヘ、十九時下溝子ニ到リ、同地宿營ニ決ス。

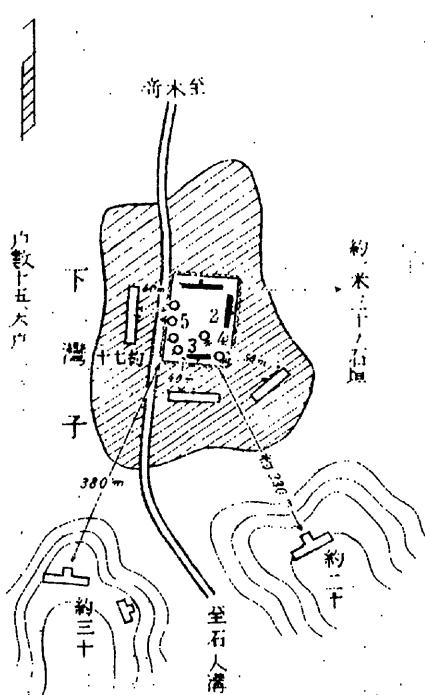
小隊長ハ屋内ニ入ルニ先ダチ、要圖ノ如キ

隊勢ノ警備配置ニ就カシメ、各分隊ニ防禦配備ノ區署ヲナシ、一部ニ兵器手入、炊事準備

ヲナサシム。二十時四十分頃所命ノ事項ヲ終了シ、衛兵ノミヲ残シ他ハ屋内ニ入り裝具ヲ解キ食事ヲセシム。正ニ食事ヲセントスル折表門ノ附近ニテ、歩哨ノ「誰カ」ノ誰何ト同時ニ、三方ヨリ集中火ヲ受ケ、戸板、障子ヲ破リテ敵弾ハ屋内ニ猛烈ニ入ル。

小隊長ハ「各分隊速ニ位置ニ就キ、前ノ敵

射撃」ト命ズ。各分隊（内ニハ一名或ハ二名位裝具ヲ取ラザリシモノアリキ）ハ、一時庭ニ伏シ戰備ヲナス。裝具ヲ取ラザリシモノバ、直ニ位置ニ就ク。各分隊所命ノ位置ニ到リ。射撃開始。交戦約五〇分程ニシテ敵



0713

ヲ擊退ス。之配宿前警戒配備ニ就ク豫習ヲ確實ニ實施シアリシニ依ルモノト言フヲ得ベシ。

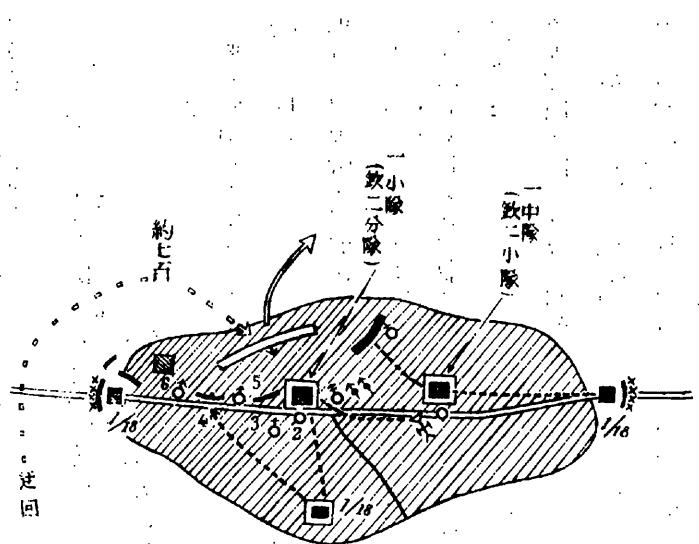
三、步哨ノ警戒嚴ナリシ爲

敵匪ノ夜襲ニ對シ機先ヲ制スルヲ得タル戰例

獨立守備隊ハ軍命令ニ基キ、第二師團旅順要塞部隊ト協力シ、三角地帶ニ割據シ、滿洲國ノ統制ニ服セズ抗日ヲ目標トスル、劉景文、鄧鐵梅、李春潤一派ノ討伐ニ任ズ。大隊ハ昭和七年十二月十四日、安奉線、道遠堡ヨリ、大營子、龍王廟ノ鄧鐵梅ノ根據地ニ向ヒ攻撃前進ス。

中隊ハ中間中隊トシテ攻撃前進中、十二月十七日、紅旗街（安東東方約四〇糠）附近ニ於テ、約三〇〇ノ敵ヲ南方ニ擊退シ、龍王廟ニ向ヒ前進中、紅旗堡子（鳳凰城西南一七糠）ニ宿營ス。密偵ノ報告ニ依レバ、約五・六〇〇ノ匪團ハ、本夜日本軍ヲ夜襲スルノ企圖ヲ有スト。中隊ハ敵ノ夜襲ヲ豫想シ、準備ヲ完了シ、次頁要圖ノ配置ヲ以テ宿營ス。

午後十二時頃、約七〇〇ノ匪團、要圖ノ位置ニ達セリ。（約五〇米）敵ノ行動極メテ靜肅ニ實施セラレアリテ、未ダ中隊ノ配置ニ就カザルニ、敵ハ既ニ到着シアリテ裝填中ナリ。此ノ時銃前哨ハ耳ノ活動ニ依リ、裝填操作ノ音響ニ依リ來襲ヲ察知シ、其ノ適切ナル報告ニ依リ中隊ハ、機先ヲ制シ敵ヲ擊退スルヲ得タリ。



一四八

0715